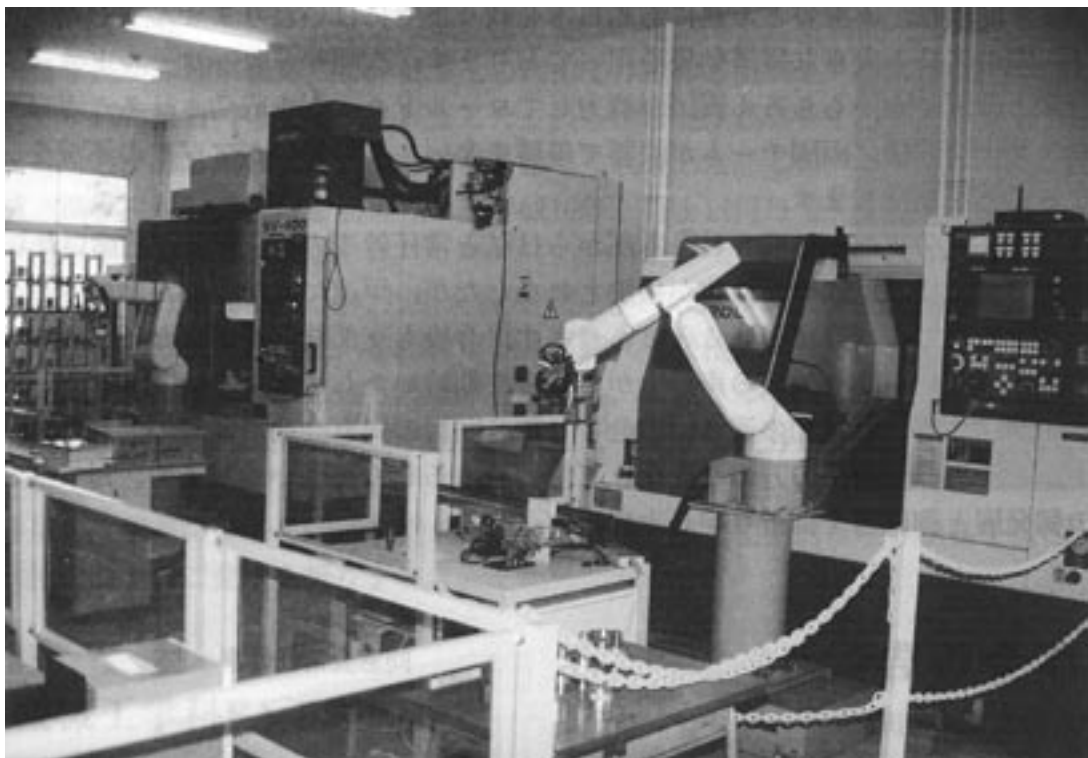


新 風

1998

久留米工業大学同窓会会誌

第5号



「機械工学科 F A 工場開設」

久留米工業大学同窓会

〒830-0052 久留米市上津町 2228 久留米工業大学内
電話 0942 (22) 2345

1. 同窓会会長挨拶

同窓会会長 近 藤 満 幸

例年になく暑い夏も嘘のようにめっきり涼しくなりましたが、皆様元気に御活躍のことと幸いです。昨年は、長谷川修学長の突然の辞任で動揺致しましたが、幸いにも、有田一寿理事長をはじめ角誠ノ助学長代行、黒瀬幸正局長および大学関係者のご努力で新学長高松康生氏をお迎えすることができました。新学長のもと、母校の益々のご発展をお祈りします。

今年、フランスで開催されましたサッカーワールドカップでは、日本チームの戦いに熱い声援を送りましたが、健闘空しく一勝もすることなく予選リーグで敗退し、世界のレベルの高さを思い知らされました。一方、開催国フランスは、決勝で前回優勝のブラジルを破りワールドカップ初優勝に沸くとともに今大会を成功に導くことができました。経済効果でみますと、海外からフランスへ多くのサポーターが訪れ、オリンピックに匹敵する収益が得られました。不況下にあるフランスでは多大な経済効果であります。あの金メダル奪取で沸いた今年始めの長野オリンピック開催は、不況のどん底にある日本を救うまでにはいたりませんでした。世界大会の開催は、国の名誉と大きな経済効果を担っております。次回サッカーワールドカップの主催国は、日本と韓国です。もちろん両国が協力してワールドカップを成功させることは当然ですが、フランス大会同様、両国チームが決勝で優勝を争い、その勢いがアジアの不況を一掃するものになることを期待します。

さて昨年は、大分支部が結成され、本部からは私と常任幹事の林佳彦氏が出席いたしました。一昨年の総会で、支部結成の活性化が採決されましたが、早速に大分支部が結成されましたことは、本会にとって大変喜ばしいことであります。今後も支部結成を呼びかけていきますが、会員の皆さまの間でも支部結成の声が上がることを期待いたします。

最後ですが、すでに御承知の通り同窓会では第3回目の同窓会会員名簿の発刊準備を進めております。どうぞ一つ皆様の方のご支援とご協力をよろしく御願い致します。母校並びに皆様の益々の御発展と御健勝を御祈り申し上げます。

2. 部会報告

同窓会常任幹事 林 佳 彦

～大分支部の結成～

本学同窓会大分支部総会が、平成9年11月22日(土曜日)午後18時から、大分リーセントホテルにおいて、約29名の出席のもと、盛大に開催されました。本部からは近藤満幸会長ほか1名が出席いたしました。

総会では石井和俊氏の開会宣言に始まり、近藤満幸会長から挨拶がありました。続いて支部総会開催までの経過報告がありました。



次に議事に入り、支部長と支部役員の選出があり、新支部長として三股哲氏（短自1回生）が選ばれました。会則の決定と今後の活動計画が審議され一部修正の後議案通り承認されました。続いて同窓会本部の活動状況、創立30周年記念事業および総会の報告がありました。今後の活動方針として支部組織を拡大することが全員一致で承認されました。

総会終了後、記念写真撮影を行い、同会場にて懇親会が行われました。池永洋一氏（短自2回生）のご発声で乾杯が行われ、楽しい歓談の一時を過ごすことができました。最後に黒崎辰喜氏（短自4回生）の音頭で万歳三唱が行われ、懇親会を終了いたしました。

大分支部では今回出席出来なかった卒業生の皆さまへ支部会の入会を進めております。ご希望の方は長田繁雄氏（大分高等学校、電話097-551-1101）までご連絡下さい。

3. 高松 康生新学長就任

長谷川修学長から理事会あてに、健康上の理由で辞任申し出があり、平成9年12月31日付けで受理されました。長谷川修元学長は平成6年4月1日から3年8ヶ月の間、学長を勤められました。この後、角誠ノ助教授が学長代行を勤められ、平成10年2月1日付けで高松康生氏が学長に選任されました。

高松康生学長は、昭和33年3月に九州大学大学院をご卒業され、九州大学助手、助教授を歴任後、昭和47年5月に同大学教授に就任されました。昭和63年4月からは九州大学工学部長、平成4年3月退職後、同年4月有明工業高等専門学校校長として平成9年3月まで在職されました。

高松学長は、現在の少子化問題や将来に向けた大学改革に積極的な取り組みを示されております。母校の益々のご発展を祈ります。



4. 機械工学科FA工場開設

—実際の生産現場に近い生産プロセスを学習できる—

機械工学科では、生産技術や設計製図およびそれらに関連する幅広い分野の実践的教育を行うためにFAシステムを新設致しました。当システムは現実に近い生産工学の学習ができるように仮想受注管理機能を搭載しています。

まず最初に、学内LANなどを利用して、多品種製品についての仮想受注を発生させます。次に、この受注情報を受け取ったコンピュータは、その製品に必要な構成部品の展開を行ったあと、必要数量を割り出します。当然、注文は同時に多数発生し、納期や数量および製品の種類はさまざまです。そこで、必要部品の在庫数量や納期および注文主の重要度などの条件を整理して、自動的に生産計画をたてます。調整されたジョブスケジュールに従って、FA管理端末から着手順の情報を無線LANを使ってそれぞれの装置に渡します。AGV（無人搬送車）は

FA端末からの指示によって自動倉庫やNC工作機械および組み立てロボットの間を移動し、必要な素材や部品あるいは完成品を搬送します。NC旋盤およびマシニングセンターはそれぞれ専用のマテハンロボットによりAGVから素材あるいは加工工程途中の材料を受け取り、必要な加工を行います。



NC工作機械を使う加工では、各部品の製作のためのNC加工プログラムが必要になります。そのためのNCプログラムは、FA制御室に隣接しているCAD/CAM演習室で専用ソフトを利用して作成できます。CAD/CAM演習用パソコンとFA管理端末とはネットワークを構成しているので、製作したNCプログラムは即座に管理端末に送られ、無線LANによって工作機械へ転送されます。

従って、工作機械側の数値制御盤のメモリー容量を越えた大きなNCプログラムであっても無線LANで連続的に送ることができます。このようにマシニングセンターとNC旋盤の間をマテハンロボットやAGVを介して加工工程に従って加工を進めると部品が完成します。これらの部品は無人倉庫に収納されます。倉庫に必要な部品が揃うと、各部品はAGVによって組み立てロボットに運ばれ組み立てられます。組み立てられた製品は再び倉庫に運ばれて出荷の段階となります。

以上が、おおまかな本学のFAシステムであります。このFAシステムは学生の教育に活用することはもちろんのこと、地場の企業へも提供したいとのことであります。

(久工大だよりから一部抜粋)

5. 同窓会事業経過報告

昨年より、第3回目の同窓会会員名簿発刊に向けて当同窓会で準備を進めてまいりました。現在、小野高速印刷株式会社による委託調査が行われております。すでに葉書による住所確認を終え、電話による最終的な追跡調査が進められております。来年、3月までには発刊できる見通しであります。なお調査項目や内容について不明な点がありましたら本会の事務局までご連絡下さい。

在学生への教育設備の援助として、昨年度は喫煙マナーの向上を目的に灰皿を寄贈しました。今年度は、テント3張りを寄贈する予定であります。

6. 会計決算と予算報告

平成9年度決算書

(平成9年4月1日～平成10年3月31日)

科 目	収 入 (円)	科 目	支 出 (円)
終身会費	6,904,280	大学への寄付	181,125
雑収入	3,677	学生活動補助費	300,000
繰越金	15,932,913	運営費	376,632
		事務費	83,025
		パソコン関連維持費	243,369
		終身会費納入依頼経費	43,860
		会報誌発刊経費および送料	1,473,671
		会員名簿作成準備金	130,000
		予備費	61,500
		次年度繰越金	19,947,688
収入合計	22,840,870	支出合計	22,840,870

繰越金内訳

内 訳	金額 (円)
現金	44,612
郵便普通預金	4,949,208
銀行普通預金	20,908
郵便定期預金	11,895,000
銀行定期預金	2,531,010
郵便貯金センター	506,950
合 計	19,947,688

会計監査 中 尾 幸 平 印
高 西 賢 二 印

平成10年度予算報告書

(平成10年4月1日～平成11年3月31日)

科 目	収 入 (円)	科 目	支 出 (円)
終身会費	6,481,000	大学への寄付	300,000
雑収入	10,000	学生活動補助費	500,000
繰越金	19,947,688	運営費	950,000
		事務費	350,000
		パソコン関連維持費	1,500,000
		終身会費納入依頼経費	60,000
		会報誌発刊経費および送料	1,600,000
		会員名簿付加作業代	500,000
		予備費	500,000
		次年度繰越金	20,178,688
収入合計	26,438,688	支出合計	26,438,688

特 集

久留米工業大学の歩み

(第二部 4年制大学開学から大学院の設置まで)

4年制大学の開学

昭和50年8月28日の久留米工業大学設置認可申請に対して、文部省の審査、審議を経て昭和51年1月10日、当時の永井道雄文部大臣より久留米工業大学（機械工学科定員70名、交通機械工学科定員60名、建築設備工学科定員60名）の認可があった。

開設される3学科の特色として以下のようなことを挙げている。

(機械工学科)

あらゆる工業分野において求められる、機械技術者としての基礎学力を修得し、併せて豊かな教養と実践性を身につけた有為な人材を育成することを教育の方針とする。専門教育においては複合的に機械技術の基礎となる機械材料、材料力学、機械力学、熱工学、流体工学、機械工作および機械設計製図などの基礎学力の充実に図り、管理者として必要な知識を与える。教育の実施にあたっては、要点の解明を旨とし、これを豊富な演習、実験および実習で裏付けを行い、学生の理解を容易にするものとする。教育課程においては教官と学生との人的交流を深め、楽しい教育研究の場の醸成と人間性豊かな学生の育成を図る。

(交通機械工学科)

航空機、鉄道、船舶などの機械部門についてはもちろん陸上輸送車両、特に自動車教育に重点をおき、それに対応できる基礎学力を修得させ、併せて豊かな個性と教養を身に着け、実践に富む有為な人材を育成することを目的とする。

専門科目の教育においては、交通原動機、交通車両、交通電気、交通機械力学などの部門において基礎学力の充実に図り、管理者として必要な能力を育成し、生活環境の整備、特に交通車両の公害については排気、騒音、交通事故などの研究施設を設置し、調査研究を行い、無公害車両およびエンジンの研究開発につとめる。自動車教育については実験、実習を重視し常に豊富な教材を使用し、選択制により2級自動車整備士教育を併せて行い、理論と技術教育の総合効果により、時代に即応する教育を行う。

(建築設備工学科)

近代建築は、技術の進歩に伴い超高層化、設備の大型化が急速に進歩し、建築物の多様化、機能の高度化と相まって冷暖房、衛生、給排水などの設備の充実が進められ、意匠、構造と同様に重視されるに至った。本学科は建築工学はもちろんのこと、建築環境に必要な空調、衛生、電気、音響、または公害防止等の企画、設計、施工、管理について基礎学力を修得させ、併せて豊かな個性と教養を身につけ、近代化に即応する有為な技術者を養成することを目的とする。専門科目の教育においては、研究開発および企画、設計はもちろん、現場技術者として有能な人材を育成するよう配慮し、实际的理論の展開を行い豊富な実験実習によって教育の実をあげる。なお建築士、設備士その他の国家資格を取得させるため広く理論と技術を修得させる。

別科設置

大学の開設によって急激な在学生の大幅な減少による大学財政の逼迫の懸念、学年進行中の技術者の余剰等があって、短期大学に相当するような学科の設立もしくは夜間過程の開設が模索された。本学は大学を設置しても、2級整備士養成教育に対しては設備・施設、人員に余裕があった。また業界からも多くの2級整備士養成が求められていた。しかし、文部省としては学年進行中では定員の増加等は認められないが、既存の学科を母体とする別科の設置は可能であるとの指導を受けた。

自動車工業専修過程は交通機械工学科の専任教員を主体に、機械工学科の教員を兼担として教育を行うこととしている。また、両専攻とも運輸大臣より2級整備士養成施設として認定された。

電子情報工学科の設置

昭和57年5月に電子情報工学科、経営管理工学科の2学科を昭和58年6月申請、昭和59年4月開設する計画の概要が公表された。しかしながら、昭和57年7月、法人本部における経理の不透明さが露顕し、それに続く学内のごたごたのため学科増設の計画は延期のやむなきに至った。

昭和58年度を迎え、有田一寿理事長のもと、計画の見直しが進められ、昭和60年度申請、昭和61年度開設の構想が打ち出された。

久留米・鳥栖テクノポリス計画を推進している久留米市当局から本学がこの地域における先端技術の教育研究の絶対必須の中核として位置づけられていて、電子情報工学科の増設の早急な実現が要望されていたが、市当局の対応が固まらず、また文部省の新方式についての考え方がその肝心の点で明確でなく、焦燥のうちに新年（昭和59年）を迎えた。昭和59年2月末、有田理事長が文部省と意見交換を行った結果、事態が急転し、既存の施設・設備の最大限の転用を前提とし、しかも当初の予定を1年繰り上げて昭和59年6月申請、60年4月開設を目標として電子情報工学科のみを増設するための計画の早急な再検討を示唆された。当局との度重なる折衝を経て、最終的に4月24日計画推進に対して文部省の一応の了解を得られた。

昭和59年12月22日当時の松永光文部大臣より申請していた電子情報工学科の設置が認可された。

大学院の開設

昭和61年に智能工学研究所を開設し、さらに電子情報工学科増設と同時に学内LAN構築を図るなど電子化大学構想を進めるなど、教育研究の環境整備に努めてきた。一方、地元企業、卒業生から大学院を開設して欲しいとの要望が高まり、これを受けて平成元年より大学院設置が具体的に検討され始めた。

平成2年6月に大学院設置準備委員会を発足させ、具体的な審議に入った。平成3年2月に大学院工学研究科（修士課程）、エネルギーシステム工学専攻、情報システム工学専攻（後に電子情報システム工学専攻と名称変更）の2専攻を設置することを決めた。平成6年11月30日に久留米工業大学大学院設置認可申請書を提出し、平成7年3月大学院設置が認可された。

（久留米工業大学三十周年記念誌より）

7. 平成10年度新役員

顧問	高松 康生 (学長)	有田 一寿 (理事長)	黒瀬 幸正 (局長)
	春田 千秋 (学生部長)		
会長	近藤 満幸 (短自S43)		
副会長	古賀 秀信 (大交S54)	丸太 祐之 (大交S55)	
常任幹事	小島 剛 (短自S46)	林 佳彦 (大機S56)	
幹事	三股 哲 (短自S43)	藤木 豊作 (短自S43)	陣内 久始 (短自S43)
	中原 賢勝 (大建S54)	宮崎 嘉久 (大交S54)	中島 隆 (大建S54)
	山本 秀行 (大建S55)	竹村 真一 (大機S58)	原田 憲二 (大機S61)
	牛島 晃司 (大機S61)	小野 弘之 (大建H1)	小路口心二 (大電H1)
	瀬戸口英樹 (大電H9)		
会計	正岡 秀仁 (大交S63)	高西 賢二 (大交S58)	
監査	中尾 幸平 (大機S56)	池田 秀 (大交S57)	
書記	池田 秀 (兼務)		

8. 教職員人事移動

(新任者)

教授	谷口 研二	教授	白谷 克巳
事務	野田 恭一		

(退職者)

教授	川江 信二	教授	吉武 博之
教授	武石 泰亮	教授	藤野 精一
技術職員	国信 善也	事務	中島 嘉弘
事務	高島 則信	用務員	山下 竹子

(平成9年4月1日～平成10年3月31日)

編集後記

皆様のおかげをもちまして本会誌名「新風」の第5号を発刊することができました。昨年は大分支部が結成され、今後の活動の活発化が期待されます。会員の皆さまの間でも支部会結成の声が上がること期待します。また、会員の皆さまからの投稿をお待ち申し上げています。クラス会や近況報告、本会へのご意見などありましたら、同窓会本部までご連絡下さい。本会が益々発展するようお祈りするとともに今後ともに皆さま方のご協力をお願いします。

(編集者 井川 秀信)